

平成20年3月期 第1四半期財務・業績の概況（非連結）

平成19年8月10日

上場会社名	中央ビルト工業株式会社	上場取引所	東証第2部
コード番号	1971	URL	http://www.chuo-build.co.jp/
代表者	(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西本 安秀		
問合せ先責任者	(役職名) 常務取締役管理統括本部長 (氏名) 安達 圭朗		TEL (03) 3661-9631

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第1四半期の業績（平成19年4月1日～平成19年6月30日）

(1) 経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第1四半期	1,977	1.7	129	△16.7	108	△18.7	108	△18.6
19年3月期第1四半期	1,944	5.4	154	45.0	133	54.0	133	77.2
19年3月期	8,322	—	562	—	478	—	446	—

	1株当たり四半期 （当期）純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第1四半期	5	25	—	—
19年3月期第1四半期	6	45	—	—
19年3月期	21	68	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
20年3月期第1四半期	6,731		1,397		20.8		67	85
19年3月期第1四半期	6,676		983		14.7		47	70
19年3月期	6,918		1,289		18.6		62	60

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
20年3月期第1四半期	△2		△66		△123		358	
19年3月期第1四半期	3		△2		△183		206	
19年3月期	1,010		△118		△730		551	

2. 平成20年3月期の業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

平成19年5月21日に公表しました中間期業績予想を直下の市場動向を見据え見直した結果、下記の通り上方修正致しました。尚、下半期は不透明な部分が多いことから通期業績予想については変更しておりません。

(%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
中間期	4,200	0.1	273	△9.6	230	△11.5	206	△19.2	9	95
通期	8,501	2.2	570	1.4	485	1.5	452	1.3	21	84

3. その他

- (1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

〔(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成19年5月21日に公表しました中間期業績予想を上方修正致しました。通期業績予想については変更しておりません。上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

業績予想の前提となる事項については、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報を参照下さい。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期における国内経済は、鉄鋼・エネルギーを中心とする企業収益の堅調さを背景として、設備投資の好調及び個人消費の底入れ感もあり、国内民間需要主導による景気回復は、緩やかながらも堅調に推移しております。当社の属する仮設事業業界においても、堅調な民間設備投資を背景に需要の底堅さを維持しております。

このような状況の中、当社は前期において、国土交通省認定事業再構築計画3カ年の最終年度をほぼ計画通り達成致しましたが、今期は「再建5カ年計画」の第4年目に入り、更に安定的経営基盤の確立・残余期間の計画を着実に達成すべく、一層の収益基盤強化やコスト改善のための施策の推進に努めつつ、着実にその達成を実現しつつあります。

当第1四半期におきましては、鉄構部門では提携先での受注状況を反映し、当社への鉄骨加工量が減少し苦戦を強いられております。他方、機材部門では鋼材等の原材料価格の高騰・高値安定や、下げ止まったというものの引続き同業者間の賃料競争という厳しい環境がありましたが、総じて業績は好調でありました。

この結果、当第1四半期の業績は、次の通りとなりました。売上高は期首計画比、鉄構部門が落ち込むものの機材部門が伸びたため、微増の19億7千7百万円となり、売上総利益は微増の4億3千8百万円となりました。営業利益は期首計画比、販売管理費及び一般管理費が減少したため、大幅増の1億2千9百万円となり、経常利益も期首計画比、大幅増の1億8百万円となり、四半期純利益は期首計画比、大幅増の1億8百万円となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期の総資産は、67億3千1百万円となり、前事業年度末と比べて1億8千7百万円減少しました。総資産の内訳は、流動資産が30億4千2百万円（前事業年度末比2億3千5百万円の減少）、固定資産が36億8千8百万円（前事業年度末比4千7百万円の増加）であります。流動資産の主な減少要因は前事業年度末における現預金の減少であります。

負債の部では、流動負債が30億7千9百万円となり、前事業年度末と比べて1億2千5百万円減少しました。また、固定負債は22億5千3百万円となり、前事業年度末と比べて1億7千万円減少しました。流動負債の主な減少要因は、支払手形及び買掛金他の減少であります。又、固定負債の主な減少要因は長期借入金の減少であります。

純資産の部は、四半期純利益を1億8百万円計上したことにより、13億9千7百万円（前事業年度末比1億8百万円増）となりました。

キャッシュ・フローについては、営業活動の結果、資金は2百万円減少しました。投資活動においては、資金は6千6百万円減少しました。その主な要因は有形固定資産の取得による支出であります。また、財務活動の結果、資金は1億2千3百万円減少しました。主な要因は借入金返済による支出であります。

以上の結果、現金及び現金同等物は1億9千3百万円減少し、当第1四半期末残高は3億5千8百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

高収益商内の売上が集中し、又、賃貸機材商内において、当初予想より伸びコスト削減等もあり収益率が改善したため、増収増益となる見込みです。

通期としては、下半期での業績見通しに関して不確実な要素が多い為、据え置きと致します。

(中間期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成19年5月21日)	4,111	252	210	179	8 65
今回修正予想 (B)	4,200	273	230	206	9 95
増減額 (B-A)	89	21	20	27	1 30
増減率 (%)	2.2	8.3	9.5	15.1	15.1
前中間期実績	4,195	302	260	255	12 37

4. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

影響額が僅少な項目につき、一部簡便な手続きを採用しています。

(2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. (要約) 四半期財務諸表

(1) (要約) 四半期貸借対照表

(単位：百万円、%)

科目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第1四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 前期末 平成19年3月期末
	金額	金額	金額	増減率	金額
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金	292	358	66		563
2. 受取手形及び売掛金他	1,849	1,914	65		1,905
3. たな卸資産	845	752	△93		794
4. その他	8	16	8		14
流動資産合計	2,995	3,042	47	1.6	3,277
II 固定資産					
1. 有形固定資産	3,344	3,293	△50		3,289
2. 無形固定資産	4	3	△0		3
3. 投資その他資産	332	390	58		347
固定資産合計	3,681	3,688	7	0.2	3,640
資産合計	6,676	6,731	54	0.8	6,918
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 支払手形及び買掛金他	1,501	1,721	219		1,965
2. 短期借入金	1,599	979	△620		932
3. その他	286	379	92		306
流動負債合計	3,387	3,079	△307	△9.1	3,205
II 固定負債					
1. 長期借入金	2,292	2,243	△48		2,413
2. その他	13	10	△3		10
固定負債合計	2,305	2,253	△52	△2.3	2,423
負債合計	5,693	5,333	△359	△6.3	5,628

科目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第1四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 前期末 平成19年3月期末
	金額	金額	金額	増減率	金額
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金	275	275	—		275
2. 資本剰余金	526	526	—		526
3. 利益剰余金	173	595	421		486
4. 自己株式	△7	△9	△1		△9
株主資本合計	967	1,387	420		1,279
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価 差額金	15	10	△5		10
評価・換算差額等合計	15	10	△5		10
純資産合計	983	1,397	414	42.1	1,289
負債、純資産合計	6,676	6,731	54	0.8	6,918

(2) (要約) 四半期損益計算書

(単位：百万円、%)

科目	前年同四半期 (平成19年3月期 第1四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第1四半期)	増 減		(参考) 前期 平成19年3月期
	金額	金額	金額	増減率	金額
I 売上高	1,944	1,977	32	1.7	8,322
II 売上原価	1,512	1,539	26	1.7	6,574
売上総利益	432	438	6	1.5	1,748
III 販売費及び一般管理費	277	309	32	11.6	1,185
営業利益	154	129	△25	△16.7	562
IV 営業外収益	3	3	0	3.0	15
V 営業外費用	25	24	0	△3.4	100
経常利益	133	108	△24	△18.7	478
VI 特別利益	—	—	—	—	6
VII 特別損失	0	—	0	△100.0	33
税金等調整前四半期 (当期)純利益	133	108	△24	△18.6	451
税金費用	—	—	—	—	4
四半期(当期)純利益	133	108	△24	△18.6	446

(3) (要約) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前年同四半期 (平成19年3月期 第1四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第1四半期)	(参考) 前期 平成19年3月期
区分	金額	金額	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	133	108	451
減価償却費	116	114	442
支払利息	22	22	87
売上債権の増加・減少額	200	△19	407
割引手形の増加・減少額	△101	22	△293
棚卸資産の増加額	△33	△8	△159
仕入債務の増加・減少額	△292	△244	171
その他	△12	30	△1
小計	31	25	1,106
利息及び配当金の受取額	0	0	4
利息の支払額	△22	△22	△84
雑収入の受取額	2	2	10
雑支出等の支払額	△2	△2	△11
法人税等の支払額	△7	△6	△14
営業活動によるキャッシュ・フロー	3	△2	1,010
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△8	△67	△147
有形固定資産の売却による収入	6	—	27
その他投資の取得による支出	△12	—	△12
その他投資の減少による収入	11	0	13
その他	△0	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2	△66	△118
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の借入による収入	—	60	130
短期借入金の返済による支出	△48	△13	△990
長期借入金の借入による収入	—	—	667
長期借入金の返済による支出	△134	△170	△535
その他	△0	△0	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△183	△123	△730
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
V 現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)	△182	△193	161
VI 現金及び現金同等物の期首残高	389	551	389
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	206	358	551